

ホンヤドカリ、イソカニダマシ、モエビ、ハルマンズナモグリ、スジエビモドキ、フナムシ、ウミズムシ、ホソヘラムシ、ニホンコツブムシ、ウミナナフシ、ワレカラ sp、ヨコエビ sp、ウミグモ sp

**軟体動物**……………ヤスリヒザラガイ、ウスヒザラガイ、ケハダヒザラガイ、マダラウミウシ、アオウミウシ、シロウミウシ、ミノウミウシ、クロヘリアメフラシ、イシゴロモ、マツムシガイ、ムギガイ、レイシガイ、メダカラガイ、カニモリガイ、スガイ、ヒメクボガイ、コシダカガンガラ、クボガイ、インダタミガイ、チグサガイ、ヒバリガイ、エガイ、トマヤガイ、オトメガサガイ、トコブシ

**環形動物**……………ケヤリ、フサゴガイ、クマノアシツキ、ゴカイ

**扁形動物**……………ツノヒラムシ

**腔腸動物**……………ヨロイイソギンチャク

**海綿動物**……………ムラサキカイメン、クロイソカイメン

9の動物門、62種で、今までの採集物から比較すると非常に収獲が少ない。しかも、追加すべき種類が全くない。この学習会が、本海岸で同月頃するのが今回で6回目、そして5年前から続けている関係で常習者が僅少になったこと、学習会での採集よりも海水浴を楽しむ参加者が多くなったような感じを受けたこと、家族ぐるみの楽しい雰囲気での学習会であったことなどが採集物が少なくなった理由だろうか？ 博物館主催の学習会ならば一面ではそれで充分意義が果せるかも知れないが、他面では学問的にも貢献できる資料をつくる必要があると信ずる、こういった複雑な感想をもつ学習会であった。

## 思い出すままに

伊藤 十治

今年は、博物館創立25周年になるという、創立関係者を始め今日まで多くの方々の御努力、御精進の労を多し敬意を払いたい。思えば昭和26年、復興博覧会を期して建設したという（福井県博物同好会会報 創刊号による）。また、この会報も今年で第24号になる。現館長と筆者とが創刊号より現在号まで執筆し続けている。筆者はその当時、大学生であった。また、博物館しょくたくまたは協力員となったのが昭和30年、今日にいたるまで何もできないのに役目だけいただいている。誠にはずかしい限りである。ただ、昭和27年8月17日～18日に、第1回海産動物採集会が実施されてから今年で26回目になる。これだけは筆者のみが1回の休みなく参加、その上世話係をさせてもらっている。この採集会の講師を願っている酒井恒先生には大へんお世話になり博物館25周年記念としては、第1にあげなくてはならない先生である。

筆者が関係した部分の思い出を記録にとどめたい。

昭和31年8月、横浜国立大学附属理科教育岩実験所へ、博物館主催の臨海実習……田尻利広先生(現 市教委)と2人で夜汽車で真鶴へ、車中で知りあった名古屋の女性2人、三島までなんとかして起きていたが、トンネル内がその限度だったらしい。眼がさめたときは熱海を発車した後、これで計画全くご破算、熱海で下車しなければ真鶴へはいけない。どうしようもないのでそのまま大船へ直行。乗り換えて鎌倉へ、朝早くから酒井恒先生宅へ行き、しかも朝食=パン食だったと思う。味よりも感激して腹一パイ。筆者は先生宅へも実験所へも始めてではない。実験所では、早朝にエビ網の下での採集一こっそりと寝床をでていかないと他人に獲物をとられるので一楽しかったものだ。あの時の感じは行った者しかわからない。全部で10数名だったと思う。“アジのたたき”がおいしかったこと。竹内民男先生(現 県教委)が船の上でイナダを釣りあげたこと。故五十嵐清先生が1斗かんに何パイも採集物をつめて武生高校へ送ったこと。ドレヅジした時に筆者は右手をいためてしまったこと。帰りは、酒井教授の御指示で福井からは筆者1人が再度、相模湾内をドレヅジしたとき、エンジンが故障して2・3時間波上をさまよい、どうやら漁船に助けられ、酒井先生を大へん心配させてしまったことなど。

昭和37年4月22日、天皇・皇后両陛下を福井市役所の新庁舎にお迎えした時の天覧標本について……標本づくりのためにわざわざ上京-酒井恒先生宅まで行きいろいろと御指導仰ぐ-明道中学校でセルロイドの下敷を細かく切って、カニ標本20数種類をつくったこと。このときは、大へん苦勞した。市社会教育課長、天井定美氏にもだだをこねたのもなつかしい思い出の1つになってしまった。

昭和32年8月11日~12日の1泊2日の総合採集会-猛暑の昼近く、鳥羽駅(小浜線)へ降りてから、リックや胴乱の重さに肩をいため暑さにうだりながら歩いて行ったこと。途中でトラックに乗せてもらいたいのには堀館長さんの許可なしではどうにもならず、しぶしぶ宿舎まで行った思い出、夜、アフリイカ *Sepioteuthis lessoniana* FÉRUSSAC の泳ぐときの音の大きいこと、イガイ *Mytilus crassitesta* LISCHKE の中にいるオオシロピンノ *Pinnotheres sinensis* SHEN 1932を宝さがしのように探したことなど、思い出はつきない。

明倫中学校教諭